

北 海 道 新 聞

中のあの不愉快な臭みを脱せず、旅客の保持に及び切つてゐない、川駅のことだが待合室の標示が全く趣意を缺き、よく西函館線送の小荷物の標示などは平常から整理してないため古い類似したものが救済も出てゐてこれが現在のものかといはり判らない、同駅発着時二十三分の釧路行の乗車指定券の交付方法は全く不親切だ、旅客は断の行死でやつと乗車券を購入手午後九時から十一時の間に再び駅に行つて指定券の交付を受けて零時二十三分に三たひ駅に出掛けてやつと乗車するといふわけだこれなどは最初発着するときに別の列車に乗り換へるかを預め置いて指定券の余裕があればその場で今夕とか明晩とか親切に通知すべきである、これは駅長、助役の頭の切り換へが出来てゐない証拠であらう荷物事故では戦時中から評判の悪かつた滝川駅を訪れる、事故は一週間に達しても申出さへあれば旅客の納得ゆくやうに厳密に調査する方針で活躍してゐるが、この駅の真面目な態度がさらに強く愛望される

窓から見るあの駅も活潑な状態硝子は春陽に明るく輝いて快い、それに較べて列車の窓はまだく汚い、これは検車区の手が不潔してゐるせいもあるがその責任はあくまで鉄道自体の責任である乗車券の発賣方法が駅によつて

置はせてゐることか、この川駅が最近駅員を班長にして導してゐるのはよい方法だ、在の状況で乗車券を購入手するさいには旅客にとつては苦勞である、しかも油断を札鉄局が許してゐるのか本議だもつと真面目さが欲しい主要駅の列車相談所は連日連夜つきりなしの旅客で悩まされてゐるその半分の苦勞を小駅が知つたれば班長には全部駅員がなり

質より

溢る

石炭飢饉打開のため、政府の従つて來た労働政策は質を條件しないを主眼のみを充足するに應ずるものであつたが二の充足を終つたと見られる最近

出稼率	一日平均在 人員増減数 (△印は減)
九月(上旬) 七四・九	△ 七四
九月(下旬) 六五・八	△ 七四
十月(下旬) 五六・四	△ 二七・二
十一月(下旬) 六八・七	五七・七
十二月(下旬) 七七・四	一・八(○)
一月(下旬) 八四・一	四・三九七
二月(下旬) 八五・二	七四・二
三月(上旬) 八五・四	三九・二
三月(中旬) 八五・九	五七・四

即ち右の表によれば労働者の数四万一千人から五万七千六百人、約二万五千人を半印程度の増

五年計畫で増産

今年の日標二万五千貫

蘭

蘭の物産のこの蘭であるが蘭の二千年歴史は五千人として蘭の歴史は五千人、蘭の歴史は五千人、蘭の歴史は五千人

作し出之反動的課長連の責任糾弾
対資戦術の再検討、北海道労働
盟への加入なきを上程して断乎を
る闘争の決意を闡明せんとして
ある

経専の「緑丘」に發賣延期

學園の民主化阻む學校當局

新聞『緑丘』發賣延期の災厄——
小樽経済専門學校『緑丘』編輯部
では第百九十八号（三月二十五日
発行）に學校長の苦米地英俊氏に
つき批判の記事を掲載したところ
それが眞面目に純正な立場から事
実を批判したに拘らず印刷された
新聞は横暴なる先鞭におさへられ
四月十日まで発行たらびに發賣を
延期され編輯部自体も學校當局か
ら解散を命ぜられた、この問題に
関して編輯部員はもとより學生、
父兄の間にも非民主的であるとの
非難の聲が高い

要求をあるみにける戦術をとつての
ることが明らかとなつたので、組
合は『會社側に敬意なし』とし三
十日午後四時を期し経営管理を明
明し断乎闘争に入つた

低調な文書戦

選挙戦も後半期に入つていよく
酣となつたが活潑な言論戦に比べ
文書戦の方は極めて低調である、
札幌管内普通局の選挙郵便取扱ひ
状況は二十六日現在僅かに総数二
十三万で選挙期日が公示された十
一日から二十日まで七万となつ
てをり問題にならない、二十日頃
から少しづつ増して一日やうやく
一万、一万を数へるやうになり二
十五、二十六日になつてやつと二
日七万となつたが札幌局だけでも
平常一日の取扱数が五万に上つて

年はお幾つ、お名前は

新入學兒童知能検査

『三イコトモ』『オハヨウ』
『センセイ』と書いた紙を前
にこの字を讀みますか、『書
ツクリする位大きな字を書へ
る男の子は、お名前をい

これまで
は本道に保
ないため、
てをり、
の不慮があ
の能率が低
た最近輸送
く事務が滞
申込みを
までに三百
は半年もか
人が死ん
險金がとれ
月以上は
加入者の
で本道に
たいとい
の懸案で
とになつ
すでに
されて
とへ豫

る先生の額
は嬉しい入
午後一時か
學校の行つ
における教
課状態の整
検査結果